

整 形 外 科

高橋 和久

整形外科の教室発足から昭和37年までの歩みについては、初代鈴木次郎教授が「千葉大学医学部八十五年史(昭和39年9月27日発行)」に「整形外科教室史」として記載している。さらに昭和38年から昭和50年までの出来事については、第二代井上駿一教授が「千葉大学医学部百周年記念誌(昭和53年1月10日発行)」に「整形外科講座」として記載している。このため、本誌には昭和51年から平成21年までの34年間について記すこととする。奇しくも、昭和51年は私が千葉大学を卒業し、整形外科に入局した年にあたる。

第二代井上駿一教授は、昭和43年8月1日、38歳で教授に就任され、昭和51年にはすでに整形外科全般に教室の活動を展開しておられた。とくに頸椎、腰椎疾患や脊柱側弯症に関する診療・研究を充実発展させた。脊柱側弯症治療においては千葉大式 Harrington rod や Halo-pelvic 牽引装置を開発し臨床応用を行った。昭和51年11月1日、理学療法部(リハビリテーション部)が発足し、井上駿一教授が部長を兼任した。昭和53年1月14日には、新病院(現在のにし棟)の開院式が行われた。昭和52年、井上教授は日米側弯症合同会議副会長および千葉県側弯症対策委員会委員に就任した。昭和53年3月24日には千葉県整形外科医会が設立された。4月1日、教室の辻陽雄助教授が富山医科薬科大学教授に就任され、玉置哲也講師が同大学助教授に就任した。富山医科薬科大学には、この他、伊藤達雄先

生、館崎慎一郎先生、山田均先生、野口哲夫先生、小林健一先生、加藤義治先生、大内純太郎先生などが赴任した。辻陽雄先生の移動に伴い、村田忠雄講師が千葉大学の助教授に就任した。昭和54年4月1日より、井上教授のご尽力により文部省にて、脊柱側弯症の早期発見・治療を目的として小・中学生の脊柱検診が学校保健の診断項目に加えられた。昭和54年10月7日、千葉大学整形外科開講25周年記念講演会、記念式典ならびに祝賀会が開催され、教室業績集が発行された(写真1)。昭和56年2月1日、松井宣夫講師が助教授に昇任した。昭和56年12月12日には、教室の同門会誌である「千整会会誌」が発刊され、毎年度の教室同門の業績や活動状況が記載されることとなった。本稿に記載した内容も多くは各年に発行された「千整会会誌」の記載によるところが大きい。昭和57年10月15日、井上教授は第9回整形外科バイオメカニクス研究会を東京にて主催した。昭和58年10月11-13日、井上駿一教授は3rd Congress Spinal Section WPOA(第3回西太平洋脊椎外科学会)を主催した。本会には東南アジア、オーストラリア、米国、カナダなど13か国から、国内も含めて450名が参加した。昭和60年9月1日、松井宣夫助教授が名古屋市立大学教授に就任した。この後任として、昭和60年11月1日、富山医科薬科大学より玉置哲也助教授が千葉大学に着任した。昭和61年7月17-18日、井上駿一教授が第19回骨・軟部腫瘍研究会を千葉にて主催した。昭和61年8月1日、玉置哲



写真1. 開講25周年記念式典

第2章 医学研究院・医学部，附属病院の歩み

也助教授が和歌山県立医科大学教授に就任した。これに伴い10月16日，守屋秀繁講師が助教授に昇任した。聴神経鞘腫の手術と続発したクリプトコッカス髄膜炎を克服された井上駿一教授は，昭和62年4月19日，新潟で行われた第60回日本整形外科学会総会にて生涯の業績を集大成した教育講演「小児脊柱変形の治療」を行った。6月8－10日，第3回西太平洋脊椎外科学会手術教育コースを開催した。国内外の脊椎外科医が集まり，多くの公開手術が行われた。昭和62年8月5日，井上駿一教授は気分の不快を訴えられ，千葉大学第一内科に入院された。診断は肝臓癌であり，9月21日16時35分，57歳で急逝された。9月25日に通夜，26日に密葬が行われた（写真2）。10月18日，教室・同門会・日本整形外科学会合同葬が医学部の記念講堂にて行われた。

昭和63年5月21日，守屋秀繁助教授が第三代の千葉大学整形外科教授に就任した。さらに，10月に北原宏講師が助教授に昇任した。昭和64年1月7日，昭和天皇が崩御し，1月8日，平成元年と改元された。平成元年4月14日，守屋秀繁教授は，浦安にて開催された第6回日本整形外科学会にて教育講演「関節鏡－現在と未来」を行った。9月17日，井上駿一教授の三回忌法要が行われた。平成3年2月1日，伊藤達雄先生が東京女子医科大学主任教授に選任された。平成4年2月15日，守屋秀繁教授は，第

13回東京膝関節学会を主催した。平成5年11月6日，大塚嘉則先生が幕張のOVTAにて第27回日本側彎症研究会を主催した。平成6年4月1日，北原宏助教授が千葉大学医学部附属病院放射線部教授に就任した。平成6年6月11日，教室開講40周年記念講演・祝賀会がホテルニューツカモトにて開催された。記念講演会では津山直一先生，辻陽雄先生にご講演を頂いた。平成6年12月4日，守屋秀繁教授は日本関節鏡学会を主催した。平成7年は，阪神大震災，オウム真理教事件，夏の猛暑，不景気など多難な年となった。平成7年1月16日，南昌平講師が助教授に昇任した。平成7年6月30日－7月1日，守屋秀繁教授は第21回日本整形外科スポーツ医学会を幕張メッセにて主催した。平成7年11月1日，辻陽雄教授が富山医科薬科大学医学部長に就任した。平成8年10月26日，南昌平助教授は第5回日本脊椎インストゥルメンテーション研究会を主催した。12月3日，守屋秀繁教授は第21回日本関節鏡学会を東京にて主催した。平成9年，勝呂徹先生が東邦大学医学部整形外科学第一講座の教授に昇任した。先生は平成12年4月1日，主任教授となった。平成10年11月14－15日，北原宏教授が第32回日本側彎症学会を千葉市文化センターにて主催した。平成11年2月1日，後藤澄雄先生が助教授に昇任，さらに7月1日，吉永勝訓先生がリハビリテーション部助教授に昇任した。平成12年には，翌年に行われる守屋秀繁教授を会長とする，第74回日本整形外科学会学術集会の準備が，教室・同門の総力をあげて行われた。平成13年4月19－22日，千葉大学整形外科学教室・同門の悲願であった，第74回日本整形外科学会学術集会が，守屋秀繁教授が会長をつとめ幕張にて盛大に開催された（写真3）。21世紀のはじめの年にふさわしく，学会のスローガンは「整形外科 新たな挑戦21」であった。シンポジウム12題，パネルディスカッション15題など空前の規模の学会となった。平成13年10月25日，第1回千葉整形外科MRI研究会（後に千葉整形外科MR研究会，さらに千葉整形外科画像研究会）が開催された。平成13年4月1日，放射線部教授北原宏先生が千葉リハビリテーションセンター長に就任した。平成13年12月1日，山縣正庸先生が第3回日本脊椎内視鏡研究会を東京にて主催した。平成14年2月1－2日，南昌平先生が第15回日本自己血輸血学会学術総会を主催した。平成14年9月27－28日，守屋秀繁教授が日本リウマチ・関節外科学会を主催した。平成14年9月28－29日，守屋秀繁教授が日本臨床バイオメカニクス学会を主催した。平成15年1月24日，同門会長の石橋文



写真2.井上駿一教授の密葬



写真3.第74回日本整形外科学会学術集会

太先生がご逝去され，2月16日，「石橋文太先生を偲ぶ会」が幕張プリンスホテルにて行われた。平成15年3月20－22日，守屋秀繁教授は第28回日本膝関節学会を主催した。平成15年4月1日，山下武廣先生が，千葉市立海浜病院長に就任した。平成15年4月1日，高橋和久が助教授に昇任した。平成15年11月15－16日，守屋秀繁教授は第14回臨床スポーツ医学会を幕張メッセにて主催した。平成15年11月28－29日，南昌平先生は第37回日本側弯症学会をOVTAにて主催した。平成16年1月30－31日，守屋秀繁教授は第34回日本人工関節学会を幕張メッセにて主催した。平成16年4月1日，千葉大学が国立大学法人となり，平成16年4月2日，守屋秀繁教授は千葉大学理事に就任した。この年の新医師臨床研修制度の導入により，2年間入局者なしとなった。平成16年

6月8－10日，東京女子医科大学の伊藤達雄教授は，第33回日本脊椎脊髄病学会を京王プラザホテルにて主催した。平成16年6月17－18日，亀ヶ谷真琴先生は第43回日本小児股関節研究会をかずさアカデミアパーク国際会議場にて主催した。平成16年6月26日，千葉大学整形外科教室開講50周年記念式典が，幕張プリンスホテルにて開催された。平成16年9月25日，吉永勝訓先生が第28回日本リハビリテーション医学会関東地方会を主催した。平成17年1月1日，和田佑一先生が，帝京大学医学部附属市原病院整形外科教授に就任し，豊根知明先生が助教授に就任した。この他，神川康也先生，山下剛司先生，木村健司先生が赴任した。平成17年8月25－26日，長尾竜郎先生が第8回日本福祉のまちづくり学会全国大会を開催した。平成17年9月2－3日，黒田重史先生が第32回日本肩関節学会を舞浜にて主催した。平成17年10月1日，吉永勝訓先生が千葉リハビリテーションセンター長に就任した。平成17年1月1日，和田佑一先生が帝京大学医学部附属市原病院院長に就任した。平成18年4月1日，豊根知明先生が帝京大学医学部附属市原病院整形外科教授に就任した。平成18年4月1日，南昌平先生が聖隷佐倉市民病院院長に就任した。平成19年2月1日，守屋秀繁教授の最終講義が行われた。平成19年2月21－23日，日本医療機能評価機構による病院機能評価の訪問審査が行われた。病院機能評価にあたっては，高橋和久はタスクフォースとして尽力した。平成19年4月14日，守屋秀繁教授の退任祝賀会がホテルミラマーレにて盛大に行われた（写真4）。同門会員



写真4.守屋秀繁教授の退任祝賀会



写真5. 高橋和久の教授就任祝賀会

の94%が出席し，500名近い出席者による祝賀会となった。

平成19年7月1日，高橋和久が千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授に就任した。平成19年9月15日，教授就任祝賀会がホテルニューオータニ幕張にて行われた（写真5）。平成19年11月6日，原田義忠先生が千葉大学大学院医学研究院整形外科学准

教授に昇任した。平成20年4月1日，山崎正志先生が，千葉大学大学院医学研究院整形外科学准教授に昇任した。平成20年4月17日，新病棟（ひがし棟）が完成し，記念式典が行われた。平成21年9月から，附属病院にし棟の改修工事がはじまり，整形外科は11階に移動した。

（たかはし かずひさ）